アステラス上益城号誕生！

2月15日、上益城消防組合消防本部（中冨一消防長）にアステラス製薬株式会社から高規格救急自動車の贈呈がありました。同社は、1970年から全国で救急車を贈呈する取組みを行っており、今回で243台目。車内の後方では、180㌢の長身の人でも立つことができ、患者を乗せるベッドは方針磁石を使用しており、ベッドを左右にスライドすることが可能。他にも最新式の医療機器が装備されています。贈呈された救急車は中冨消防長から「アステラス上益城号」と命名されました。

贈呈したアステラス製薬株式会社（左）

女性の力で消防活動

2月20日、女性の消防団への加入促進を図るために消防団幹部を対象に、御船町消防団研修が上益城消防本部で行われました。消防団員確保アドバイザーとして長濱美根子元津奈木町消防団副団長が講話。津奈木町は、昭和26年に県内初の女性消防団を結成。“自分たちの町は自分たちで守る”を合言葉に女性消防団で火災現場に向かい、消火活動を行うこともありました。長濱さんは「女性の力、お母さんの力で何でもできる。これからも男性に負けない気持ちで頑張りたい」と話し、女性消防団の創設や団員の加入促進を呼びかけました。

女性消防団の重要性について講話する長濱さん（左）

要救助者あり！空との連携訓練

2月21日、上益城消防組合消防本部が上益城消防署の訓練棟で熊本県防災消防航空隊との合同訓練を行いました。訓練内容は、中高層建物火災で逃げ遅れた人を想定し、助けを求めている人を防災ヘリで救出するものです。隊員たちは隊長の指揮のもと、すばやい動きで要救助者を救出、同時に消火活動も行い、防災消防航空隊との連携を密にしました。同組合警防通信指令課の東良昭さんは「訓練での成果を現場でも活かしていきたい。また来年はさまざまな災害を想定した訓練を実施したい」と話しました。

防災ヘリから隊員が救助に向かう様子

御船高書道部　復興支援にひと役！

積水ハウス株式会社が建設する御船町災害公営住宅「木倉団地」と「一丁目第２団地」の顔になる看板を御船高等学校書道部が書道で制作しました。これは、積水ハウス株式会社が地域に建設される災害公営住宅の顔となる看板を地域で制作できたらと提案されたもの。制作を担当した川上日鶴さん（２年）と杉島聖奈さん（２年）は「機械の力で書くよりも人の力で書いた方が思いがこもり、温かみを感じると思った。この看板を見て頑張ろう！という気持ちになってもらえれば」と笑顔で話しました。

▲制作した杉島聖奈さん（下段：左から３番目）と川上日鶴さん（下段：右から３番目）

感謝の〝気持ち〟から感謝の〝贈り物〟へ

２月22日、七滝中央小学校（大竹紳一郎校長・82人）が入江歯科の入江絹子先生に送った年賀状がお年玉商品で１等賞金が当たり、当校に本を贈呈しました。入江先生とは、昨年の11月に歯周病などを予防する「歯の授業」がきっかけで交流し、その感謝の気持ちを込めた年賀状を栗嶋愛海さん（小６）が入江先生に送りました。贈呈された本は図鑑や小説など211冊。入江先生は「（年賀状の当選は）こんなことは一生ないと思う。手書きで温かみのある年賀状をいただいてとてもうれしかった。卒業するまでにみんなで読んでもらえれば」と笑顔で話しました

贈呈した入江先生（左）と年賀状を送った栗嶋さん（右）

多くの人に見守られながら燃え広がる高原

吉無田高原春の野焼き

２月24日、吉無田高原に春の訪れを告げる「野焼き」が行われました。野焼きは、原野火災の防止やダニなどの害虫駆除を行うことを目的としています。冬の景色から新緑の芽立ちを促進させ、ワラビ狩りや草スキー、キャンプなどの行楽地へと変わる恒例の行事として続いています。約20㌶の原野を消防団監視のもと、地元住民で火を入れ、オレンジの炎が斜面を駆け登る姿は圧巻。初めて野焼きを見学した藤谷成人さんは「たくさんの人たちの力で、この高原の素敵な景観や自然環境が維持されているんだなと学びました」と話しました。

みふね初市・商工感謝祭・屋台村 ～春のイベント３連発～

２月24日、町商工会が主催するみふね初市と商工感謝祭が本町通りで行われ、さまざまな露店が並びました。オープニングイベントとして鼓心会による力強い太鼓で幕が開き、毎年恒例の紅白餅、みかん投げが行われました。午後は、みんなで作る長いカッパ巻きに挑戦。前回記録90mを越え、95mで御船ギネスを達成、参加者でおいしくいただきました。夕方になると、街なかギャラリーでたくさんの屋台が並ぶ、屋台村が登場。来場者は、趣きのある空間で酒を酌み交わし、平成最後の屋台村を楽しみました。

1_みんなで作るカッパ巻き御船ギネス記録達成！
2_街なかギャラリーで屋台村　3_町なかを練り歩くチンドン屋　4_ミニＳＬ（蒸気機関車）でみんな楽しく乗車！